

来週の「売り物」記事はこれ



2011年4月28日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

東日本大震災 暮らしはどうなる？ くらしナビA面 連載中

すでに節電に励んでいる家庭も多いですが、真夏に向けていっそう、電気を節約しなければなりません。窓に植物を這わせて緑のカーテンを作ったり、蓄電池を備えたり…。今から準備できる節電策をお伝えします。また相次ぐ余震や更なる大震災に備えるため、高層マンションの住民が何をすべきかについても調べました。



週末から3日連続掲載「学ぶ 育てる」 7日から

7日から毎週土曜、日曜、月曜と3日連続で教育関連のページ「学ぶ 育てる」を掲載します。土曜日は、ベテランデスクが子供向けに旬なニュースを解説する「教えて！デスク」、簡単な英会話のフレーズを取り上げる「はなしてみよう」など。日曜日は、しばらくお休みしていた子ども面が復活。1回目は被災した子供たちの学校生活について取り上げます。月曜日は新紙面になった教育のページ。全国の大学にある新学部・学科を取り上げる連載「大学NOW」が始まります。

今春から小学校の授業で新聞が活用されています。週末から3日連続の「学ぶ 育てる」のページをぜひPRしてください。

旧山古志村村長の「永田町日記」

東日本大震災「激動！ 50日間」

夕刊特集ワイド面 5月2日（月）

あまたの命が奪われた東日本大震災の発生から50日が経過しました。この間、永田町はどう動いたのでしょうか。04年の新潟県中越地震当時、旧山古志村（現長岡市）の村長だった長島忠美さん（60）＝写真＝はその後、自民党衆院議員に転身しました。山古志村長として、中越地震の翌日には全村避難を決断し、自らも避難所・仮設住宅暮らしを経験。それだけに、「被災地の自治体首長の苦悩はよく分かる」と話します。一方で、政府の対応の遅さや、野党ゆえのジレンマも痛感するとも。「防災の語り部」として知られる長島さんの目に映った、政治の舞台裏で繰り広げられた生々しい人間ドラマ……。震災50日間の「永田町日記」を公開します。



「知りたいが分かる」がモットーの「特集ワイド」に、ご期待下さい。

第69期名人戦七番勝負第3局 5月6、7日



羽生善治名人（40）＝写真右＝に森内俊之九段（40）＝同左＝が挑む第69期名人戦七番勝負（毎日新聞社、朝日新聞社主催、大和証券グループ協賛）の第3局が5月6、7の両日、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートで行われます。「永世名人対決」はここまで、森内十八世が会心の指し回しを見せて羽生十九世に2連勝。挑戦者が4期ぶりの復位に王手をかけるのか。4連覇を目指す名人にとっては正念場の一局です。

死者・行方不明者2万5000人余りという未曾有の大被害をもたらした東日本大震災。大津波に襲われた岩手県釜石市に記者が滞在し、三陸の被災地で生きる人々と復興の物語を長期連載します。スタートは5月2日朝刊、タイトルは「三陸物語」です。取材・執筆は萩尾信也編集委員が担当します。



1回目は、津波に1*。近く流されながら、橋脚に巻きついたロープにしがみつき九死に一生を得た漁師の物語です。脚を負傷しながら陸地に泳ぎつき、家族と再会するまでを描きます。

失われた多くの命を継承して生きてゆく被災地の人々。シリーズでは三陸の復興を第一歩から描くのと同時に、死者と生者の鎮魂の物語を紡いでいきます。ご期待ください。

紙面事情などにより掲載日に変更になることがあります。